

アイヌの人々について知ろう

所要時間 90分

対象 小学校6年以上

1 アイヌの人々の人権を学ぶ意義

アイヌの人々の文化や伝統は、今日では十分に保存・伝承が図られているとは言い難い現状にある。また、アイヌの人々に対する偏見や差別の問題がある。アイヌの人々の歴史、文化、伝統及び現状に関する認識と理解を深め、アイヌの人々の人権を尊重する観点から取組を推進することが求められている。

準備

- ・ 資料：『シサム』になりませんか（『あけぼの』 中学生版）
- ・ 資料：『アイヌ民族：歴史と現在—未来を共に生きるために—』（発行：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）

進め方

導入

- 活動の流れ（指導者の教示、子どもの反応・行動）
- 1 アイヌの人々に関するクイズに答える。
 - ①日本は単一民族国家である。
 - ②日本人はヤマト民族である。
 - ③アイヌ人は、交易は得意とせず、狩りや漁による自給自足の生活をしていた。
 - ④明治政府は、アイヌの人々に対して「保護法」をつくった。…等
 - 2 アイヌの人々に関して、知っていること、疑問に思うことを発表し合う。
(北海道に住んでいる、アイヌの文様、自然を大切にしている、会ったことがない等)

展開

- 3 資料『シサム』になりませんか』を読んでまとめる。
 - ・ クイズや疑問について、確認をする。
 - ・ 新たに発見したことをまとめる。
 - ・ 感想をまとめる。
 (社会科教科書や『アイヌ民族：歴史と現在—未来を共に生きるために—』も必要に応じて活用する。)

振り返り

- 4 感想を発表し合う。
(長野県におけるアイヌの業績を学ぶ資料を読み合う活動を入れる方法もある。)

留意点等

- 『シサム』になりませんか（『あけぼの』 中学生版）の内容
 - 豊かな文化、差別への抵抗の歴史、現在のアイヌの人々の思いを知ることを通して、新しいパートナーシップを結ぶ「良き隣人（シサム）」としての認識を育むことを願って教材が作成されている。
 - ・ 日本は「単一民族国家」？
 - ・ 先住民族アイヌ
 - ・ わたしは決して幽霊ではありません。
 - ・ 和人の侵略とアイヌのたたかい
- 『アイヌ民族：歴史と現在—未来を共に生きるために—』（発行：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）が各小中学校に1冊ずつ配布されている。
- 長野県におけるアイヌの業績を学ぶ資料として、『「わたし」と「あなた」そして「みんな」の人権』及び『参加型人権教育プログラム集』に「飯田線とカネト」の資料が掲載されている。
- 人権つうしん第42号（H24.2.3）「アイヌ民族の歴史と現状」も参考となる。

「ハンセン病問題を学ぶ」 (中学校 道徳)

1 主題名 「ハンセン病問題を学ぶ」・2年(6時間扱い)

4-(3) 偏見や差別のない社会の実現。

2 資料名 資料:「ハンセン病とともに生きる」(『あけぼの』 中学生向け)

パンフレット:「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省)

パンフレット:「ハンセン病について考えてみませんか!」(長野県)

DVD:『未来への虹—ぼくのおじさんは、ハンセン病—』(人権啓発ビデオ)

3 主題設定の理由

中学生になると、社会の中で公正・公平が実現することを求める気持ちが強くなる一方で、周囲の目を意識し、親しい仲間の考えに同調したり、自己中心的な行動をとってしまったりすることがある。差別的言動に直面したとき、内心ではいけないと思っても、勇気を出して止めるなどの行為に対して消極的になってしまうこともある。この時期にこそ、誰に対しても公正・公平に接し、偏見や差別意識をもたないことの大切さに気づかせ、よりよい社会を実現しようとする態度を育てたい。

本学級の生徒は、全体的には男女とも仲が良い。しかし、男女とも、特定の仲間と固まって行動したがる傾向が見られる。また、人権学習に入る前のアンケートでは、失敗をからかったり、容姿をけなしたりする行為に気づいて指摘できる生徒もいるが、身近にいじめやからかいはないと答えている生徒も多い。自分の親しい人以外には、悲しい思いをする友達がいても行動を起こせないのではないかという危惧もある。

そこで、ハンセン病問題にかかわる様々な資料を通して、差別の歴史や実態、差別の中を生きぬいてきたハンセン病元患者の人たちの生き方に学ぶことで、差別のない社会の実現に努める態度や行動が大切であることを感得するとともに、身近な問題も含めて差別や偏見を克服し、人権尊重の精神を育ていけるよう、本主題を設定した。

平成13年(2001年)5月、ハンセン病訴訟は原告団の勝訴となり、長年にわたり隔離政策を続けてきた国の責任が明白となった。これほど長期間隔離政策がとられてきたのには、国民一人一人の偏見や無関心により、世論の高まりが遅くなったことにも原因があると考えられる。ハンセン病問題を学ぶことは、ハンセン病に関わる偏見や差別をなくしていくとともに、今後、新たな差別や偏見を生まないためにも大切な学習である。

4 人権教育とのかかわり

○ハンセン病問題に関わる歴史的な経過や課題を理解する。(知識)

○社会の偏見や無関心が差別を助長してしまうことを理解する。(知識)

○ハンセン病元患者の生き方に共感するとともに、元患者の心の底にある思いを想像できる。(価値・態度、技能)

5 指導上の留意点

○指導者の立場として、国民の偏見や無関心から隔離政策が続いたことにふれ、国民の一人として謙虚な立場で指導にあたりたい。その指導者の姿勢が、生徒に学習意欲をもたせることにもつながる。また、このことは、偏見や無関心が差別を助長する(いわゆる傍観者がいじめ・差別を助長)ことを理解する上でも大切なポイントである。(『あけぼの 人間に光あれ 活用の手引』より)

○ハンセン病元患者の語る内容には、隔離政策による被害を訴えるものが多くある一方、療養所へ入所したことに対して感謝する内容のものもある。しかし、元患者の心情を読み解いていくと、感謝の言葉の中に被害が隠れていることがある。元患者の心の底に思いを寄せる取組が必要である。

○児童生徒がハンセン病問題を学ぶだけでなく、お便り・学習発表など、学習内容を発信し、保護者・地域への啓発をしていくことも、有効な取組である。

6 単元展開の概要

	学習活動	教師の指導・留意点	備考
第1・2時	1 ハンセン病に関わる偏見や差別の歴史を知る。	○「ハンセン病とともに生きる」の資料によって、偏見・差別に対する憤り、疑問や関心が今後の学習に活きるようにする。 ○ハンセン病に関わる疑問点についてパンフレット等を調べながら、偏見や差別が、なぜ続いてきたかを考える。 ・「ハンセン病はどんな病気か」「隔離政策とは」「ハンセン病療養所の様子」「長野県ではどうだったのか」等の疑問を班ごとに調べて発表し合う方法もある。	「ハンセン病とともに生きる」(『あけぼの』中学生版) パンフレット「ハンセン病の向こう側」「ハンセン病について考えてみませんか！」
第3・4時	2 ハンセン病に関わる偏見や差別が、なぜ続いてきたかについて、DVD『未来への虹』(30分)を視聴し、考えを深める。	○ハンセン病に関わる偏見や差別が、なぜ続いてきたかについて、調べたことや自分の考えを発表し合う。 ○「ハンセン病とともに生きる」の主人公は療養所の外の社会で、「未来への虹」の主人公は療養所の中から、差別の壁をなくすために取り組んでいたことを確認する。 ○偏見や差別のない社会を実現するためにどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。 ・自分の身の回りの問題とつなげて考えている生徒の文章を紹介し、自分の在り方・生き方を見返していくことの大切さを確認する。	DVD『未来への虹』(企画・制作：法務省人権擁護局(財)人権教育啓発推進センター)
第5・6時	3 当事者の講演を聴き、その生き方に学ぶとともに、新たな差別や偏見を生まないためにはどうしたらよいか考える。	○講演会の前に、講師に聞いてみたいこと、伝えたいことを学習カードに記入して講演に臨ませる。 ○差別や偏見をなくしていこうという気持ちを持たせるとともに、困難な状況を生き抜いてきた人間としてのすばらしさにも学ばせたい。	

○資料について

- ・『未来への虹』は、『ぼくのおじさんは、ハンセン病—平沢保治物語—』を基に作成されたものである。
- ・映像資料として、『未来への虹』の他に、『津軽光の向こうに』(NHK制作)、『ハンセン病元患者最後のメッセージ』(SBC制作)等を教材として活用した学校の例がある。
- ・『ハンセン病を生きて』(伊波敏男著 岩波ジュニア新書)、『差別とハンセン病』(畑谷史代著 平凡社新書)には、長野県内の小中学生の学習の事例が紹介されている。
(映像資料・関連書籍や講演会の企画について情報を得たい場合は、教学指導課心の支援室までご相談ください。)

「卑劣なネットいじめはNO！」

～DVD『ちょっと待って、ケータイ2』の活用～ (DVD 附属冊子より)

(対象 中学生以上)

時間	学習活動と内容	指導上、留意する点	資料など
10分	みなさんは、携帯電話やパソコンを使って、ネットワーク上でのコミュニケーションは、うまくいっていると思っていますか。 今日は、まず携帯電話をきっかけにした映像を見てもらいたいと思います。 映像視聴後に、問題点について考えてもらいます。	授業の趣旨説明	DISC 1 視聴
10分	登場した少女は、クラスメートたちの書き込みがエスカレートし、ひどいいじめを受けて、孤立していきます。「少女の立場」「幼なじみに少年の立場」「家族の立場」の4つの立場で、もしこんな出来事が起こっていたら、どう感じるかを書き出してみましよう。 各自でワークシートに記入	ワークシート1を配る できるだけそれぞれの立場でできることを、複数書くよう投げかける。	ワークシートは4つの立場で記入できるようにする。
15分	各自で考えたことをもとに、それぞれの立場でできることは何かなかったのか。このドラマではなぜできなかったのか。グループごとに考えて出し合ってみましよう。最後にどんなことが出たか代表に発表してもらいます。 グループごとの話し合い出したことを記入	ワークシート2を配る グループの座席に変える 司会と発表者を決めさせる	1と同様のワークシート
5分	各グループの発表 気付いたことは記入	ワークシート3を配る 他の発表で気付かせる	ワークシートには気づきのメモと、自分の感想やまとめが書けるようにする
10分	授業全体で、気付いたことや、自分の感想を記入する	席を戻させる ワークシートをまとめさせる 時間があれば補足する	

活用のポイント

大人は、子どもたちには携帯電話やパソコンを安全に活用して欲しいと願っていますが、トラブルや被害は後を絶ちません。これは、子どもたちのコミュニケーションの欠如が大きな原因と考えられています。中学校の授業で使う際には、ただ大人から「これはだめだ」「これは危険だ」と教えられても、自分たちの問題としては、なかなか素直に受け取れない傾向があります。そこで、自分たちで考え、他の人と意見を交換する過程で、問題点を意識し、社会性を身につけさせることが有効な学習となります。特に、異なる立場で考えることで、さまざまな意見が出やすくなりますから、「少女の立場」「幼なじみの立場」「クラスメートの立場」「家族の立場」の4つの立場で、どう感じるか、また、どう解決できるかを考えさせてみました。

子どもたちが、被害者にも、傍観者にも、加害者にもならないよう、ぜひ考えさせて欲しいと願っています。傍観者であった少年は、母親からかなり責められてしまいます。確かに悪かったのですが、話をすることを決断したことを授業の中で褒めてあげて欲しいです。

子どもたちに、ネットワークは匿名の世界ではなく、そこでの発信も罪になることに気づかせたいものです。